

を島根鉄道株式会社へ譲渡、同28・9・15、日ノ丸自動車株式会社と合併、現在に至る。

2 地方鉄道線

国鉄山陰本線米子駅に連絡，延長 17.7km 単線，動力電気，軌間 1,067 mm，旅客貨物運輸を目的とする。

米子法勝寺線 米子市・法勝寺間 12.4km, 大正 11・11・16 免許, 同 13・8・12 全通。母里線 阿賀・母里間 5.3km 大正 13・7・18 免許, 昭和 5・1・1 開業, 戦時中の企業整備のため休止中。

(原 功)

びはくせん 美伯線 岡山県津山市と鳥取県倉吉市とを結ぶ国

鉄自動車路線、所管する自動車営業所は岡山県倉敷市に、同支所は同県津山市にある。

1 区間・キロ程および沿革 津山・上井76km
昭30・8・16開業。

2 営業範囲 旅客・手荷物・小荷物および車扱貨物の取扱をしている。

3 使 命 この路線は姫新線津山駅を起点として岡山県苦田郡奥津村を經由、中国山脈を横断し、倉吉線倉吉駅を経て山陰本線上井関に至る路線であって、鉄道予定線勝山・倉吉間の代行的性格を有するものであり、また鉄道の津山線を通して山陰本線とを結ぶことにより、陰陽短路線として交通系路上重要な路線である。

4 特 長 本路線の起点津山市は中国山脈中の美作高原の美しい自然に恵まれた城下町である。市の中央には鶴山公園があり、慶長8年森忠政が築城、その後松平氏が明治8年の廃城まで在城し、5層の天主と高さ150尺、周囲17町におよぶ堅城を誇っていたが、いまでは鶴山公園としてまた史跡としてその雄大な城跡は広く一般の人々に知られている。院庄の作樂神社は建武のむかし後醍醐天皇が隠岐に行幸の途、この地で児島高德が桜の幹をけずり詩を書いて天皇をお慰め申上げた遺跡であり、その付近はむかしの条里制の跡である。神山駅から宮川ぞいに3km余の地点には、弥生住居遺跡がある。小高い丘の上に発見された住居跡から2,000年前当時の建築用材が家組のままの形で、炭となって出てきた貴重な資料にもとづいて古代の建築様式・規模等を再現建築した弥生時代復原家屋がある。また発掘し保存してある7つの住居跡から鉄器やガラス玉等が出てきたことは2,000余年前の初期の農業で栄えていたこの地方の経済と文化が相当進んでいたものと考えられる。温泉には奥津温泉、三朝温泉がある。(可野虎男)

びひん 備品 国鉄において工事材料および消耗品とならんで
その用途が確定した場合における物品の性質による分類であり、
用途が確定したということは貯蔵品をそれぞれの勘定の経費科
目に払出し損費に計上されたもの、すなわち決算品になったも
のことである。この決算品のうちの備品の定義は、鉄道物品
事務規程において、昭和28年度までは「物品名称鑑に定められ
た機械器具および各人に使用させるために備付けた諸用品以外
の決算品をいう」という意味のことが定められていたが、昭和
28年度から物品名称鑑が大幅に改正されたこと、各人に使用

各月の使用量を使用機関区別に決め、持込指定書にもつき直接工場より日別(日割平均)に発送している。各資材部は日割発送数量、送先を工場側へあらかじめ指示し、数量は認定検査により受け入れ発送している。この場合問題となるのは工場生産量と使用機関区の使用量との関係である。近接製造工場の生産量と機関区の使用量とがバランスがとれていれば問題はないが、そうでない場合はかなり遠距離の工場から送付の必要が起りうる。すなわち現在の契約方式が特別の事由がないかぎり従来の納入実績を基礎に契約されておられ、したがって使用者側の個々の要求に合せるためには上記のような結果となるわけであり、この問題については今後研究を要する。(山崎 武)

ピット (英)pit 機関車の火室より排除された灰を一時貯めて置いたり、また車体の下部構造の検査修繕に便利ように軌間内に設けられた坑の総称。その使用目的により灰坑、検査坑、修繕坑、ドロップピット等に分類される。(宇野浩彰)

ひのかげせん 日ノ影線 日豊本線延岡駅から五ヶ瀬川にそって西北方に進み日ノ影駅に至る 37,6km の線。日豊線に属する簡易線である。

昭和10・2延岡から日ノ影、三井田を経て高森線高森を結ぶ
鉄道として延岡・日向岡本間開通、日ノ影線と呼称、昭和14・
10、日ノ影まで開通したものである。この線の終端駅日ノ影か
らは国営自動車路線があり高千穂を通して高森線高森駅と結ば
れている。(森 椿吉)

ひのまるじどうしゃ(ほうしょう
じてんてつせん) 日ノ丸自動
車(法勝寺電鉄線)

1 事業者の概要

名称 日ノ丸自動車株式会社、
本社 鳥取市東品治町、資本金
20,000 万円、おもな事業 地方鉄
道、自動車運送（一般乗合旅客
1,224 km、一般貨切旅客、一般乗
用旅客、一般路線貨物、一般区域
貨物）。鉄道従事員 45 人、保有車両
電動客車 5、客車 4、貨車 4 両。

沿革 大正12年資本金50万円
で伯陽電鉄株式会社設立,同13年
米子・法勝寺間営業開始,昭和19
年企業整備令により広瀬鉄道株式
会社, 広瀬交通株式会社と合併,
山陰中央鉄道株式会社設立,同23
年元広瀬鉄道株式会社の経営路線



運輸概況

項 目	昭 和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	654	811	868
人 キ ロ (千)	4,889	6,117	5,679
貨物輸送トン数(千t)	4	4	5
ト ン キ ロ (千)	39	37	49
旅 客 収 入(千円)	11,952	15,037	13,913
貨 物 収 入(〃)	801	855	986
運 輸 雑 収(〃)	29	33	39
収 入 合 計(〃)	12,782	15,925	14,938
營 業 費(〃)	13,087	14,753	15,269
營 業 利 益(〃)	△ 305	1,172	△ 331
營 業 係 数(%)	102	93	102